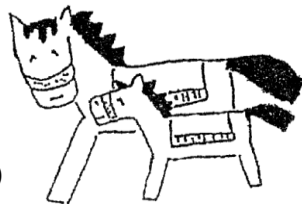


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

24年 11月 NO. 216



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		11月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
11月 2日	金	おはなしの会 10:00～11:30	11月は2歳児クラス（4月入園時）の園児も 参加します。どなたでもどうぞ。		
11月 17日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょに遊びましょう。		
11月 17日	土	スピーチ講座 14:00～16:00	3分間スピーチについて、その話の 内容や時間の感覚を体験します。		
11月 24日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。		
11月 29日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	子育て孫育て自分育て中の方、「わらい ヨガ」でリラックスしてみませんか。 講師は阿守優美さんです。		
11月 30日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり 相談できます。（予約要）		

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p><b>育児相談（月～土）9:00～18:00</b> しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	--

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集③  
「空のかあさま・上」より

夕風つめたい踏切で、  
皆して貨車をみおくれた。  
仔牛ばかしてどこへゆくんだろ、  
売られてどこへゆくんだろ、  
ひい、ふう、みい、よ、踏切で、  
みんなして貨車をかずつてた。  
いつ、むう、ななつ、八つめの、  
貨車に仔牛がのっていた。

べえこ  
仔牛



# 母性的なもので心を満たして

～ 子どもが安心できる環境づくり (前編) ～

児童精神科医 佐々木 正美

自閉症児童研究の第一線に身を置き、長年親子の心のかかわりを見つめてきた佐々木先生。子どもが安心して過ごせる家庭環境とは？前後編の前編です。

## <食卓を囲むということ>

昭和10年生まれの際は、第二次世界大戦とともに幼少期を過ごし、敗戦、終戦を経験しました。滋賀県の疎開先で厳しく貧しい少年期を過ごしました。疎開人ですから田畑を持たず、贅沢どころではありませんでした。食事は芋のつるの汁など、大変粗末なものでしたけれども一生懸命に母が用意してくれた姿が、目に焼きついています。

今は豊かで、食べ物に不自由することが一見なくなっただけに見えますが、心が粗末な食卓が多い。家族がバラバラなものを食べています。「そういう時代だから」と言えばそれまでですが、手をかけて心をかけて、食事を通して心のつながりを大切にして生きるというよりは、「自分の勝手でしょう」と言っているように見えます。自分だけを大切にするのは利己主義です。家庭の中までも利己主義になっている現状は、とても悲しいことです。

## <母性的なものと父性的なもの>

子どもにとってよい環境とは、「母性的なものと父性的なものが家庭の中にある」ことだと私は思っています。一般的な母性と父性ではありません。母性的なものは、母親一人だけの役目だとは思っていませんし、父性的なものも父親一人の役目だとは思っていません。どちらにも、母性的なものと父性的なものの役割が備わっていると考えています。

ですから、母子家庭でも立派に父性的なものがあるご家庭もありますし、父子家庭でも母性的なものがあるご家庭もあります。一人親家庭でも子どもは健全に育っています。

母性的なものというのは、家庭の中でのやすらぎ、憩いといった、子どもにとって居心地のいい温かなもののことです。「そのままでもいいからね」という子どもをそのまま受容する精神です。

それに対して父性的なものは、<人間はこのように生きなければいけない。こんなことをしてはいけない>という教えるもののことだと思っています。

夫婦が2人で協力協調しあって、母性的なものと父性的なものを家庭の中に生み出し、子どもに伝えていく。夫婦の仲がよい場合に、それが可能なわけです。



〈順番こそ大切?〉

45年近く、子どもと家族の精神医学について仕事をしてきた中で、〈母性的なものと父性的なものがバランスよくあればいいだけではない〉ということに気づきました。

母性的なものと父性的なものには、与える順序があります。子どもは、十分に母性的なものが与えられた後に、父性的なものを受け入れる力が生まれてきます。ですから母性的なものが十分に与えられていない子どもにしつけようとしても、受け入れる力が湧いてこない。この順番が非常に重要です。保護者の勉強会に招かれると、必ず伝えるようにしています。

十分に母性的なものを与えるというと、〈甘やかしすぎているのでは〉と心配される方もいますが、これは日本人のある種の共通した間違いだと思います。甘やかしているのではなく、安心させているんですね。

そもそも、引きこもりの基本的な問題にあるのは、両親に十分に受け入れられたという経験の不足です。母性的なものが足りていないから、内に引きこもってしまうのです。

学校法人生野学園の名誉理事で、精神科医の森下一先生は、不登校や引きこもりの少年少女の教育とケアにあたり、大変大きな成果をあげていらっしゃいます。生徒たちは、親に対して決定的な信頼感を回復しないかぎり、本当の意味で社会へと巣立てません。親に対する徹底的な信頼回復の元が、先ほどからお話ししている母性的なものなのです。

なぜ人間関係に喜びを見出して、人と安心してかかわれる人格になるのか。また、人間関係を恐れて引きこもる行動をとるのか。その関係性は非常に重要だと思います。

アメリカの乳幼児精神医学研究者のブルース・E・ペディ氏は、「泣いて訴える赤ちゃんの要求に何百回何千回も答えてあげることで、その子が将来大きくなったときに、人間関係に喜びを感じるための感情の基盤が育つ」と発表しました。泣いて訴えたときに、両親にどのくらい応じてもらえたかは、赤ちゃんの記憶には全く残りません。しかし、体にしみこんだ記憶として残り、そこから人に対する信頼感が生まれるというのです。赤ちゃんのときに、どれくらい泣くと両親や他の養育者が飛んできて、あやしてくれたか、癒してくれたか。誰も記憶にないですよ。

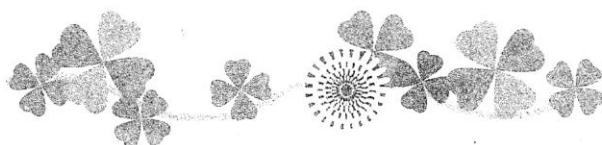
しかし、そこにこそ価値があり、意味があることだと研究で証明されています。

ですから、3歳くらいまでは十分に母性的なものの中で育てる。これが大前提で、過保護や過干渉とは、また別の話です。

父性的なものは、幼稚園や小学校で教えて

佐々木 正美 (ささき まさみ)

1935年、群馬県生まれ。新潟大学医学部卒業。神奈川県小児療育相談センター所長などを歴任後、現在は川崎医療福祉大学特任教授。自閉症療育プログラム (TEACCH) を日本で最初に紹介。2004年度朝日社会福祉賞を受賞。



くれます。家庭を離れると、ほとんど父性原理が支配しているからです。

まずは、子どもたちが安心して振る舞える環境として、母性的なもので基盤をつくること。それには温かな料理が並ぶ食卓が、心を満たす一番効果的な方法です。いつの時代も、「ただいま！」と外から帰ったときの家庭のあるべき姿に変わりはありません。

—新世 2012年10月より—

## ●ラオススタディツアーに参加して●

高松保育園 堀 侃子

今年の8月3日～11日までかがわ国際ボランティア未来塾(KVC)主催で高校生8人と大学生5人、教師1人、KVC会員7人計21人がラオススタディツアーに参加しました。

ラオスはベトナム・タイ・カンボジア・ミャンマーに囲まれた農業国です。以前は内戦もありましたが、回りの国々にみられるような子どもの物売りやお金をほしがったり、路上生活する親子の姿もなく、仏教国としておだやかに暮らしているようです。

学校へ行けなくてハダシで弟の子守りをしている子はいても農業国であるため食には困らず、貧しくても回りの人々に守られてすごしているあたたかさを感じました。

以前に比べて乗り物も増えたのに信号も少なく、傘をさしてバイクを運転したり、土の道は大きな穴だらけで事故も多発しているそうです。また、不発弾も多く残っていてボンビというテニスのボールくらいの爆弾が200万～300万残っていて、その危険についての教育や国民への周知活動、処理方法やその進行状況もわかりました。

訪問した小学校は草ぶきの屋根で雨漏りがひどく壁も黒板、机、電気もなく土の上で勉強していました。

また多くの患者が屋外に座って待っていた病院も入院した時は家族が寝泊りし、食事や介護も家族がするとのこと。最近、中古の救急車1台が使えるようになったそうですが、中は患者を運ぶ担架が1つ乗っているだけでした。

ラオスのガイドさんが言うには、交通事故や爆弾事故にあうとラオスの人は「ああ、運が悪かった」とあきらめるそうですが、本当にそれでいいのかと思いました。

かがわ国際ボランティアセンターも小学校を建てたり、教科書や文房具、衣類を運んだり、小学校の白あり退治の資金援助などしていますが、ラオスの人々が、自分たちで気づいて行動するなど、自立するための支援とは何なのか、これからの大きな課題だと思いました。



草ぶき屋根のハツカン小学校